

1.だれをどう喜ばせるか

暇をしている人、誰かと話がしたいと思っている人に対し、いつでも会話をする事ができる人工知能を提供することによりその欲求を満たす。

2.最初に使ってくれそうな人、飛びつきそうな人は誰ですか

暇している人が暇つぶしに、あるいは病気などの関係から人と会うことが難しいような人がより先んじて使う可能性が高いと考えられる

3.困りごと(問題)は何でしょうか(3つ)

- ・人工知能の限界として、現状のものでは会話に破綻をきたす
- ・寂しい、現実の人間は都合がありいつでもは話せない
- ・介護業界における介護人不足

4.従来、その問題は、どのように対処されてきましたか

- ・会話の破綻を受け入れ、その前提で人工知能を扱う
- ・複数人の友人との会話を試みることで会話の隙間時間を埋める
- ・介護人の人数を増やす、個々人の時間を削る

5.あなたは、その問題を、どのように解決してみせますか

強化学習により学習し続ける人工知能を完成させることにより、完璧な会話を可能とさせる。

人工知能であるため時間的制限、人数的制限は存在しない。

6.あなたの「卒業研究」に興味を持ってもらえるための「売り文句」、

簡素でグッとくるもの。

「完璧なあなたの隣人」

7.他のものと比べて、あなたの「卒業研究」は何が優れていますか

常に学習を続ける人工知能を完成させることで、既存の人工知能にある会話破綻の発生を最低限に抑える。

8.あなたの「卒業研究」が良いものであることを、何のデータを使って、どうやって確かめますか

実際に開発した人工知能との会話データを取り、既存の対話型人工知能との比較を行うことで研究の成否を確認する。

9.そのための実験計画

過去の実験結果を調べ、その手法を参考にして研究に取り組む。
会話の成立の成否は度外視し、まずは対話のできる人工知能を作成。
そこからその先行われる会話から学習、より高度な会話を可能とするよう改良を加える。
会話が満足のいくレベルに達した段階で音声認識での会話もできるようにさらなる改良を加えていく。

10.実験で使用する既存の技術の技術名

強化学習(tensorflow、seq2seq)
音声認識(word2vec(音声のベクトル化))

11.まずは、既存の技術の何を使ってみるか

大前提として対話の可能な人工知能の制作が急務であるため、tensorflow、seq3seqを用いて強化学習で動く対話型人工知能を制作する。
その後、可能であれば音声認識などの機能を随時追加していく。